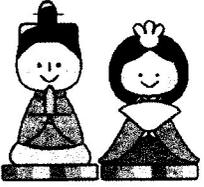


アメリカの学校はどうなってる？(つづきの①)

中山



前月号で、アメリカ、メリーランド州から視察に来た教育委員会の方たちのお話を紹介しましたが、その後、通訳してくれたインクルーシブ教育を考える会の方がご自身のインスタグラムでやり取りした詳細を伝えてくれました。英語のできない私がある場で理解したのとはまた違った内容も含まれているので、あらためて紹介します。分量が多いため、2回に分けてお伝えします。

まず！教育委員会のメンバーは選挙によって市民の中から選ばれる。なので、今回来てくださった教育議長(教育委員会のトップ)は教育のバックグラウンド無し、本職は弁護士

そして、教育委員会と密にコミュニケーションを取りながらカリキュラムの作成や地域の学校の管理を行うのがSuperintendent(教育長)、こちらは教育者

公教育は、0歳から21歳まで受ける権利がある。詳しくは・・・

①0歳-3歳 生まれてすぐに持病や障がいがあるとわかった場合、小児科医と教育委員会が連携し、教育機関から教員や専門家を派遣する。

②3歳(早ければ)～5歳(遅くても) にテスト(発達検査のようなもの?)を受ける。それにより早期発達支援が必要な子どもを見つけ出す。

発達支援が必要だと判定された場合、IEP(Individualised Education Program 個別支援計画)を作成。IEP作成には、保護者(11歳以上ならできるだけ子供本人も)、教員、専門家などが加わり、議論がされる。こうして作成されたIEPに沿って教育が進められる。

③18歳(高校卒業)から21歳 学校に来て職業訓練を受けたり、実際に職場を訪れたりする。支援学級、支援学校はあるの？

ある、が、基本的には通常学級・支援学級・支援学校が同じ敷地内にある。IEP作成時、教育機関側は、基本的にはどんな子どもも通常学級で学べるように考える。その中で、個別に必要なサポートがある場合、臨機応変に同じ敷地内にある支援学級や支援学校を利用し、科目ごとに移動したりしながら対応する。

どうしてもその学校内で補えないサポートが必要な場合、別の地区にある支援学校に通ってもらうこともある。その場合は、交通費等に関して親の負担はゼロになるように金銭的なサポートをするという決まりになっている。



やっぱり早期発見早期対応のようです。次号は通常学級に入る障害のある子どもの様子、保護者との意見対立、不登校児等の話もあります。



2/14 ミニおしゃべり会 in べしみ喫茶 ●

オエヴィスではない初めてのミニおしゃべり会はべしみ喫茶でおこないました。久しぶりに相談の方がお二人いらっしゃいました。どちらもお子さんの就学に関する悩みをお持ちのお母さんです。喫茶はゆったりとしているので、コーヒーを飲みながら和やかにお話が進みました。お一人はこの4月から支援級に通う予定のダウン症のお子さんです。小学校には5クラス支援級があるのに、ダウン症児は一人もないし先々を考えるといろいろと不安とのこと。もうお一人は現在児童発達支援に通っている年中男児だが、就学については通常級も視野に入れて考えたいので、4月からは幼稚園に通う予定ということでした。

私がミニおしゃべり会に関わるようになって20年近く経ちますが、母たちの悩みは今も昔も変わりません。(藤ヶ谷)

春の相談会 に参加しませんか

2025年3月30日(日)1時30分から4時
 武蔵浦和コミュニティセンター(8階)第2集会室
 (武蔵浦和駅からすぐ、さいたま市南区役所内)
**これから就園・就学、進学をむかえ悩んでいる方、
 学校(支援級で・普通級)での悩みをお持ちの方、
 障害のあるなしにかかわらず**

どなたでもお気軽にご参加ください。

連絡先：048-839-3234 (関)

048-942-7543 (竹迫)

*参加可能な時間でだいじょうぶです。

*個別の相談もできます。

昨年11月に開催した全国交流集会プレ集会では、学校生活や進学についての相談や、就学前の方からは特別支援教育についての情報しかなく通常学級で学べるなんて知らなかったという声がありました。その後も、就学や進学についての相談がきています。上記のようにTOKOに参加して顔を合わせてあ〜だ、こ〜だと話し合えてよかったです。

埼玉連絡会としても「春の相談会」を計画しました。どうぞ、ご参加ください。(竹迫)

TOKOミニおしゃべり会 4月11日(金) 10時30分～ べしみ

第5回実行委員会 3月20日(木・休) 1時30分～武蔵浦和コミセン第9集会室

第9回実行委事務局会議 4月8日(火) 1時30分～武蔵浦和コミセン第8集会室